

3 期目の所信表明

1. はじめに

令和5年度定例会9月会議の開催にあたり、私の町政3期目のスタートとなる本議会において、町政運営に対する基本的な考え方を述べさせていただきますので、議会並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成27年10月に初めて町長に就任して以来、「笑顔あふれる福島町」を実現するため、思いやりのある行政を目指し、まちづくり基本条例の基本理念である町民との協働による“まち”づくりを政治の根幹に、この2期8年、町政の推進に全力で取り組んできたところであります。

そのような中で、議員各位をはじめ多くの町民の皆様のご理解をいただき、この度の選挙において、3期連続、無投票という形で、当選をさせていただくことができ、改めてその責任の重さを実感するとともに、大変光栄に思っているところでもあります。

令和の時代がスタートし、早5年目を迎えておりますが、2019年12月に新型コロナウイルス感染症が発生し、2期目はコロナの予防対策に追われたと言っても過言ではありません。

しかし、そのような中であって次の時代へ町を引き継ぐための大型事業が動き出しており、私は

これらの事業を着実に前に進める責任があります。

また、現在、新たな第6次福島町総合計画の策定を行っており、福島町の新たな“まちづくり”の指針が示されようとしております。

私たち町民一人ひとりが新たな時代へ希望を抱きながら、勇気を持って歩むことで、福島町に暮らす全ての町民が夢を叶えることができるような“ふくしま”の実現に向けて、引き続き思いやりのある行政を真摯な姿勢で取り組んでまいります。

2. 町政運営に関する姿勢

次に、新たな任期4年間の町政運営全般に関する私の基本的な姿勢について申し述べさせていただきます。

これまで私は、町づくり基本条例の基本理念である「町民との協働によるまちづくり」と「思いやりのある行政」の二つをまちづくりの基本的な姿勢とし、持続可能な“まち”を町民と共に創るため、選挙公約に掲げた六つの約束・政策を実践的かつスピード感を持って取り組んでまいります。

- 一つが、「持続可能な産業への支援」
- 一つが、「地域全体で支える子育て支援」
- 一つが、「一人ひとりの健康が支える地域福祉」
- 一つが、「高齢者に優しく、災害に強い環境整備」
- 一つが、「次世代に向けたデジタル化の推進」
- 一つが、「第二青函トンネル構想の実現」

であります。

人口減少や高齢化が進む中で、社会情勢が大きく変化してきており、行政はこれまで以上にきめ細やかな対応が求められていることから、引き続き、町民の立場に立った行政の推進が重要と認識しております。

時代の変革と共に刻々と変化する行政ニーズを的確に捉え、地域や現場の声を大切にしながらスピード感をもって柔軟かつ着実な町政運営に

心掛けてまいりたいと思います。

具体的には、職員自らの考えで行動する姿勢を持ち、その現場に直接足を運び、町民の声にしっかりと耳を傾け、そこに存在する問題や課題を的確に把握することで、課題解決に即した対策を創り上げることが可能となります。

まちづくりの主役は「町民」であり、その町民から負託を受けた「議会」並びに「行政」が情報を共有し、一体となったまちづくりを町民と共に創り上げることで、町のさらなる発展に繋がるものと確信をしております。

そのために、私自身が先頭に立ち、リーダーシップを発揮しつつ、これらの基本姿勢を堅持しながら、大胆な発想と迅速な判断と決断力を持って、町政をリードしてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご支援をお願いいたします。

3. 町政運営の基本的な取組方針

次に、町政運営の基本的な取組方針について、ご説明いたします。

第一に、地場の生産力を向上することで、町内の経済循環を促進することです。

当町の基幹産業は、水産業であり、浜からの生産力を高めることが町の経済の循環に欠かせない要素となっております。

近年は、昆布養殖やウニの生産額が安定している一方、イカの不漁が続いており、生産額の減少とともに、スルメ加工の状況も厳しいものがあります。

この危機的状況を打破するためには、アワビの陸上養殖などを基本とした新たな養殖産業を創り出す必要があり、引き続き現在取り組んでいる事業の推進を図ってまいります。

第二に、1期及び2期目の政策を踏まえて、引き続き地域全体で子育てを支えてまいります。

福島町の人口は、昭和30年の1万3千人台をピークに、一時、青函トンネル工事の本格化に伴う人口増はあったものの、昭和51年を境に急激に人口が減少してきており、直近の人口は3千5百人余りとなっております。

人口減少が進む中で、子育て支援を地域全体で

推進する施策により、ここ数年の生まれる子供の数は、減少幅が小さくなってきており、若者や高齢者がふるさと福島町で「働き続けたい、暮らしたい」という思いを抱いていただけるようなまちづくりを進め、基本的な施策の着実な推進を図ってまいります。

第三には、持続可能な行財政運営の推進についてであります。

2期目の4年間は、福島商業高校存続に向けた青少年交流センター建設及び前浜資源の確保を目的とした総合的種苗センター建設並びに町民の憩いの場である吉岡温泉建設など課題の解決に向け、大型事業に取り組んだことから、町債の残高が膨らむ見込みであります。

ただ、財政の基盤を成す財政調整基金及び目的基金などの残高は、就任当時と同額の約20億円となっており、今後の財政需要に見合った基金規模は維持されております。

現在、策定中の第6次福島町総合計画では、大型事業が落ち着きますので、事業の平準化に努めながら課題の整理や問題の解消を図り、人口減少に対応した簡素で効率的な行財政運営の構築に努めてまいります。

4. 具体的な施策大綱

当町は、現在、第6次福島町総合計画を策定中であり、今年の特12月を目途に前期4か年の実施計画をまとめ上げることにしてあります。

このようなことから町政運営の基本的な方向性として、町づくり基本条例に掲げる“まち”の普遍的な5つの「まちづくりの目標」を実現するため、第6次総合計画の5つの基本方針を政策の基軸とし、この度の選挙公約で掲げた6つの事項を推進してまいります。

5. むすび

以上、3期目の就任にあたり、私のまちづくりに対する心構えや基本的な方向性について、申し述べさせていただきます。

現在、日本全体が人口減少時代を迎える中で、働き手の不足や生産人口の減少など、日本全体の地盤沈下が懸念されており、当町においても人口減少が加速しております。

このような中において、これまでの8年間の実績において、一定程度、成果も見られる状況にあり、今後の4年間については、引き続き、課題に果敢に挑戦し、スピード感を重視しながら、最小の経費で効率の良い町政運営に心がけ、職員一丸となって取り組んでまいり所存であります。

また、町民の幸福度のアップに向けて、町民の豊かさを最優先に探求してまいります。

政治の根本は「誠」であり、まちづくりの主役は町民であります。

町民の立場に立ち、謙虚な姿勢で誠心誠意、己を尽くすことが、思いやりのあるまちづくりの原点と捉えており、私に与えられた使命と感じております。

今を生きる私たちは、先人たちが脈々と築き上げてきた「ふるさとふくしま」の、その歴史と文化と人々を次の新たな時代へ引き継いでいく役

割があります。

私は引き続き町のトップ・リーダーとして、町民の皆様の先頭に立ち、与えられた任期を全力で努め、「笑顔あふれる福島町」の実現のため、持続可能なまちづくりを町民の皆様と共に創り上げる所存であります。

議会の皆様をはじめ町民の方々の格別なご理解とご協力をお願い申し上げまして、私の3期目の所信表明といたします。